

## —特集 [COVID-19 に打ち勝つために：日本医科大学の取り組み (1)]—

「COVID-19 に打ち勝つために：  
日本医科大学の取り組み」特集にあたって

横堀 将司

日本医科大学救急医学

日本国内で初めて新型コロナウイルス感染症が確認された2020年1月16日以降、生活は大きく変わってしまいました。無観客でのオリンピック・パラリンピックの開催、国際交流の頓挫、経済成長の停滞など、社会全体の閉塞感が否めない日常です。

同時に、われわれが関わる医療の日常も大きく変わっています。初期診療、集中治療、臨床を離れれば学術・教育の現場まで、どのフェーズでも多職種で連携しつつ、一つの命を救うのが医療・医学研究の醍醐味ですが、このコロナ禍ではそのさまざまなフェーズで大きな変化が生じ、綻びが生じています。

新型コロナウイルス感染症は、未曾有の変異株出現による医療の逼迫などで、今後もわれわれの生活と医療に影響を与えつづけるでしょう。いわゆる“ウィズコロナ”の時代には、この憎き感染症と闘いながら、共存していかなくてはなりません。感染拡大が収束したとしても、得られた教訓のもと、より強くならなければならぬでしょう。われわれ医療者・医学研究者

には、常に環境に順応しフレキシブルに活動できる専門家集団として、そのための変革が迫られています。

今号の特集では、日本医科大学における、コロナ禍に対峙する種々の取り組みを「COVID-19 に打ち勝つために：日本医科大学の取り組み」と題した特集でまとめました。医療のさまざまなフェーズにおいて、今どのような変革が求められているのか、あるいはどのような変革が起きているのか、実用的な知識と課題・展望を含めたウィズコロナ時代の“ニューノーマル”をご解説いただくこととしました。われわれ日本医科大学全体の取り組みをしっかりと文章化することで、未来の医療を担う人達への記録を残すことも肝要であると信じています。

執筆者の先生方が培われた貴重な英知を今こそ共有することが、この災禍を乗り越えての、より強靱な医療・医学を築き上げるための光明、そして礎になることを信じて、本特集をお届けいたします。